

## 裾野麗峰山の会山行報告書

文・浜道久美子 写真・全員

山行番 NO. 1567  
日時 2013. 10. 18 (金) ~ 19日 (土)  
山域 甲斐駒ヶ岳 (2976m)  
標高差 上り 七条小屋約2380m~甲斐駒ヶ岳2967m=約602m  
下り 甲斐駒ヶ岳2967m~北沢峠約2035m=約932m  
参加者 L後藤、浜道、掛橋 (先発)、勝又陽 (後発) = 4名

コース 七条小屋発5:45-オットセイ岩7:09-頂上7:54~8:00-駒津峰  
9:26-仙水峠10:28-北沢峠11:40-バス13:30-みだいタク  
シー15:30-竹宇駒ヶ岳神社16:30-尾白の湯-下土狩21:00  
経費 北沢峠~広河原=750-、広河原~六科・みだいタクシー=1570-  
みだいタクシー~駒ヶ岳神社=7910-

### 2日目

10月19日早朝 夜半からの雨がしとしと降っている。朝食が終わって日の出を待つ。5:30 出発の予定。時間になり小屋から出るとやはり小雨。CLから雨具装着の指示。ヘッドランプ、皮手袋、ヒンヤリするがそれほど寒くない。甲斐駒ヶ岳山頂に向かって5:45 出発。

七丈小屋の第二小屋の横の梯子を上がる。いきなりきつい。6:00 過ぎには辺りが白々してきてヘッドランプも要らなくなる。すると、見渡す限りダイナミックな雲海。空が明るくなり、葉を落とした樹木の間から鳳凰三山が良く見える。

樹林帯を30分ほど上ると、昨晚から積もった新雪に出会う。富士山も平年より19日遅い初冠雪だったようだ。その辺りから鎖場が延々と続く。岩場は嫌いではないが、昨日に続き まだあったことに辟易してしまった。ザックの中身も少々減ったと思うが感じる重さは変わらないので、いやな鎖場だ。だんだん雲行きが怪しくなる。7:10 頃 オットセイ岩に着いたが辺りはガスで一杯だ。

雨のような雪がしとしと降っている。不思議なことに風が全くない。辺りの雪の量も増えてきた。CLからアイゼン装着の指示。比較的広くて平らな場所で早めに装着する。今回用意したアイゼンは夏靴でも装着できる10本刃のアイゼンだ。一般的に言われている軽アイゼン(6本刃)では何の用も足さないとのことだ。

実際、山に来てこんな状況で、6本刃のアイゼンでは不安になる。K嬢は初めてアイゼンを使用する。雪山デビューだ。雪山でアイゼン装着は大変な作業だ。私も何回も失敗をしている。外れるはずのないワンタッチアイゼンを外してしまいKさんに大笑いされ、助けてもらったことがある。その時、自分の管理不足を痛感した。Kさんお世話になりました。

アイゼンを装着して、雪で真っ白になった甲斐駒ヶ岳の9合を通り過ぎ、先を急ぐ。アイゼン歩行に慣れないK嬢にCLから指示が飛ぶ。大丈夫、だんだん上手になってきたよ!

7:50 過ぎ、甲斐駒ヶ岳山頂に到着。辺りは360度の景観だったはずが、悲しい



八合目

昔は石の鳥居があった

今年も

雪山が始まった



雪の甲斐駒頂上



事に何も見えない。写真を撮ってそこそこに北沢峠方面に下山開始直後、わぁー雲の切れ目から見えました！雪化粧をした、北岳、仙丈ヶ岳、鳳凰三山、そして最奥に塩見岳。さらっとまとわりつくシルクのショールのような雲と雪山との交わったロケーションは美しい。身体中がぞくぞくする。今日だから見る事が出来た。感動だ。

心弾ませながら、下山する。雪も止み、積雪も少なくなり 岩場に近づいた頃CLの指示でアイゼンを外す。これからが暫く岩場ばかりの厳しい下りだ。こちらのルートは鎖場がない。あっても良さそうなところが数か所ある。

一か所 女子がとても下れない所があり お助け紐を吊るしてもらい下りることが出来た。他の登山者の方はどうするのだろうか？上れそうだが、下れなさそう。何か不思議だ。

一旦下るが、すぐに駒津峰の上りだ。この途中から中央アルプス方面を臨むと、山々の間の急な溪谷を一本の白い糸のような川を俯瞰することが出来る戸台川。三峰川の水系のような。美しい。

9:30頃 駒津峰(2752m)に到着。駒津峰から見える、甲斐駒ヶ岳と摩利支天は絶景だ。甲斐駒ヶ岳と摩利支天の美味しい所が特大サイズで目に映る。雲も随分と少なくなり、ますます。遠くの雪景色をした山々を臨むことが出来る。

30分程 岩塊を下ると樹林帯に入る。これで絶景とはお別れだ。空が見えなくなり、秋の模様の木々を眺めながら下る。気温も上がりだし。10:30 仙水峠に到着。大きくて沢山のケルンが積まれている。

仙水峠を過ぎると、直径20~50cm位の岩塊のザレ場に突入する。それも山ごとザレ場。こんなに岩塊ばかりあると見事。圧巻だ。そこを20分歩き続け、やっとまともな道を歩くことが出来る。ほどなく、仙水小屋。CLの情報だと、大変不親切で、人間としての「情がない管理人」という事だ。

ここからは川沿いに樹林帯を楽しむ。所々、滑りやすい丸太の橋を渡り、豊富な水といくつかの堰にたまっているエメラルド色に見える綺麗な水に感動しながら歩く。

11:30分 長衛小屋に到着。バス停まで15分。ここが嫌に長く感じた。

11:45分 北沢峠バス停に到着。気温は6℃。やはり、じっとしていると寒い。

13:30分発広河原行に乗車。(¥750-) 広河原から甲府行きに乗り換える。六科まで切符を買い求める。(¥1570-) 広河原発 14:10分。車掌さんに無理をお願いして、みだいタクシーの車庫前で降ろして頂く。ここから、竹宇駒ヶ岳神社までタクシーで戻る。(¥7910-)

CLの広いお顔で神社の売店のおかみさんから温泉の割引券を頂戴し至福の温泉に入浴し、帰途につく。

CLが年末に毎年登っている、雪の黒戸尾根からの甲斐駒ヶ岳は大変困難な厳しいルートと聞いております。KさんとK嬢は大変意欲的で、私も恐らく今後、冬は当然行けそうもないのでせめて秋の今 皆さんに引っ張られて行ければいいかなと思ひ参加しました。

皆さんのお蔭で、上ることが出来、また、運よく雪のアルプスを見ることができたことを大変嬉しく思っています。CLやメンバーに感謝です。



駒津峰から甲斐駒



駒津峰から仙丈ヶ岳



仙水峠に下る

仙水峠のテンカラ



仙水峠



駒津峰  
バックは仙丈ヶ岳



## その他の記述（L後藤）

1. 前日七条小屋宿泊は、長野市の中年男女2名、埼玉の単独初老オジサン1名、地元S株式会社のKさん以下5名、そして我々4名だった。
2. Kさん以下は朝5時頃頂上アタック。他は断念し下山。Kさん達とは下って来た所を八合下で会った。少し早いと思ったら九合辺りで断念したとのこと。結局、この日小屋宿泊者で登頂は我々のみだった。
3. アイゼンは安全第一で使用。初アイゼンのK嬢は苦戦だったが、ま、慣れでしょう。
4. 駒津峰下でガイド登山の初老のオバサンに会った。ザイルに結ばれていたが、頂上まで行くのか？、行けるのか？
5. 仙水峠上で「地下足袋」「ズック」履きに会った。雪があるのに・・・。
6. 仙水峠下のS小屋は、相変わらずの状態だった。
7. 北沢峠・長衛山荘（長衛小屋でない）で、ソースかつ丼（900-）を食べた。いくら山小屋でも、このかつ丼は酷すぎる。よく900-とるものだ。
8. 北沢峠からバス便は少ない。結局、2H待ち。
9. 広河原からのバスは親切だった。みだいたクシーも良かった。8000-以下で利用出来るから、縦走をした方が楽しめる。
10. 竹宇駐車場の売店「おじろ」のオババは元気だった。オババ手製の味噌（800g・1000-）を買った。味はマアマアでした。
11. 今回は黒戸尾根を往復する手もあった。事実、七条小屋に宿泊した十数名は我々以外全て往復登山だった。往復登山の良い所は、
  - イ. 上った所を下るので・・・安全
  - ロ. 車回収がないから・・・安価
  - ハ. 小屋に荷物を置いてアタック出来る・・・安楽など。ただ、同じ所を下る「面白くなさ」は逃れられない。今回参加の4名中、3名は甲斐駒初めて。往復登山でなく見聞を広げる意味でも多少、時間・経費は掛かっても縦走をしたい。お蔭で駒津峰の展望、仙水峠の景観、北沢の清冽な流れ、北沢峠の原生林等、新しい経験を重ねた。それはそれで貴重な経験だったことでしょう。

ナナカマドの実と  
新雪

